

HOPES

ホープス セカンド

2nd

世界と子ども達とをつなぎたい

大澤 明浩さん（上飯樋）

大澤さんは、教育の分野で国際協力活動を行いたいという夢を持ち続けてきました。大学時代にはカンボジアでボランティアを経験。日本の小学校で働き出してから、途上国の学校や孤児院を訪れるなどして、その思いを確かなものにしてきました。「日本の中で、外国につながる子ども達と、互いの文化を



神奈川県川崎市の公立小学校で7年間勤務。昨年からJICA(ジャイカ/国際協力機構)海外協力隊のボランティア事業でアフリカのザンビア共和国に派遣され、現地の教育現場を支援しています。



ザンビアは旧イギリス領で公用語は英語。大澤さんは英語と現地語の一つトンガ語を使っています。来年7月までの2年間、学習支援や先生方へのサポートを行います。

受容し、共生できるよう、両者をつなぐパイプ役になりたい」。そしていよいよ、昨年7月、ジャイカ海外協力隊としてザンビアに渡り、現地の学校で活動を開始しました。

派遣先には、村と似た雰囲気があると感じています。「遠く離れた国と私達との間の共通点・相違点を、子ども達に伝えたいです。グローバル(グローバルな視点を持つ)ローカルのよさを見つめる)の視点で、ふるさととのよさを考えてほしいから」。そして大澤さん自身も、日本のよさを再認識していると言います。「家族や友人、応援してくれる身近な人の笑顔を大事にしたい、感謝を伝えたいと思うようになりました」。

大澤さんは、出身校である飯館の小中学校の子ども達にも思いを寄せ、「いつかこの経験をお話する機会が持てたら」と密かに願っています。

〈編集後記〉

●「平成」から「令和」へと元号が変わり、新しい時代の幕開けです。今号の特集は、「昭和」から「平成」に変わった当時の広報担当者との会話からヒントを得て企画しました。時代の変わる大切な節目を10大ニュースと共に振り返り、平成の30年間を振り返る一助になっていただければ幸いです。そして、新しい時代、新しい幸せを見つけにいきたいと思います。(木幡)

●今年はずかしくなるのが早いなあと思っていたら、4月に入ってからのもくろ雪。一気に冬景色が戻ってきてびっくりしましたね。そこで足踏みしたせいでしょいか、色とりどりの春の花が一斉に咲き始めて、萌え出た緑とやさしいコントラストを見せています。心なごむ飯館の春です。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。